

第2回 内部検討会議～アサヒビール(株)所有地(駅前土地)買取可否～

議 事 要 録

日 時 : 平成 23 年 2 月 23 日

場 所 : コミュニティセンターやす 第 1、第 2 研修室

出席者 : (内部検討メンバー)

山仲市長、南政策調整部長、橋都市建設部長、山本環境経済部長、中島政策調整部次長、富田都市建設部次長、山中環境経済部次長、立入企画財政課長、玉田都市計画課長、白井商工観光課長、高橋企画財政課補佐、北川都市計画課補佐、事務局企画財政課(ゲストオブザーバー)

滋賀県立大学 松岡教授、野洲市商工会 奥野会長、小篠原東部自治会 鷺田自治会長、駅前自治会 大堀自治会長、野洲学区自治連合会 竹島会長

1. あいさつ

出席者の紹介の後、南政策調整部長が座長となり、会議を進行

2. 概 要

(事務局の説明)

前回の会議では、野洲市の都市施設で何が欠けているのか、野洲駅前になにが必要なのか、あるいは何が求められているのかといった視点で大胆な意見を出し合った。

今回は、この意見を具体的に5つのイメージとして整理し、その提案が実現可能なかどうかを検討すると共に、何が課題になるのかを議論した。

・提案のイメージ

①現在の駅前ロータリーを廃止し、アサヒビール所有地に移転することで大きなペースを確保

②アサヒビール所有地に飲食店を配置し、オープンカフェなどの交流スペースを設ける

③人工地盤で上下の空間を創設し、市民の憩いと交流の上部と、ターミナルの下部に分ける

(以下は、既存のホール等の土地を売却し、アサヒビールの土地に新たな拠点を設置する案)

④野洲文化ホールの老朽化を踏まえ、ホールの建替と商業店舗の集積を併せた開発

⑤文化活動や芸術鑑賞に必要なホール、地域コミュニティなどの市民活動としての拠点、また、図書館分館、市役所などの行政機能の集結を提案

(会議の内容)

- ・市が買い取る場合、その目的を明確にした上で検討することを確認した。
- ・既存の銭湯はアサヒビールの所有で、施設運営の更新はされない。また、市に対して買取の回答期限を10月に設定されたことなどを勧告すると、銭湯の存続は難しいと判断する。
- ・市民から提案された公園整備は、駅前の価値を有効に活かさないこと、また夜間の防犯上も問題があり実現は難しいと判断する。しかし、一定の緑化は必要だと認識している。
- ・文化ホールは築後約30年が経過し老朽化が進み、現在のホールを維持するにしても大規模な改修が必要となる。これを踏まえて、ホールを核としたまちづくりの可能性を検証してはどうか。
- ・既存のホール、コミュニティセンター、小劇場の市有地を売却し、資産の持ち替えにより市民の活動拠点を集約することで新たなにぎわいの場を創設する提案を支持する。
- ・ホール運営は、その運営に特殊性があり、駅前に設置することについて専門的な見地から意見を聞く必要がある。
- ・市内にはさざなみホールもあって、駅前のホールの必要性を検討する必要がある。
- ・市民活動の拠点の創設が目的で、ホールの建設が目的になってはいけない。
- ・市街地における祇王井川の洪水対策として検討している貯水槽の設置場所は、アサヒビール所有地以外で調整している。また、これが駅前地域の洪水対策の抜本的な対策にはならず、雨水幹線の整備などが必要となる。
- ・道路整備関係では、駅前ロータリー整備を平成23年度から着工し、バリアフリー化事業も進めている状況で、現時点ではアサヒビールの用地取得は計画していない。
- ・クリーンセンター、消防署、学校の耐震化工事など、大型プロジェクトを控え、買取を検討する場

合、財政計画が成り立つのかも併せて検証する必要がある。

(ゲストオブザーバー意見)

- ・市が土地を確保しなければ、野洲駅前だとマンションが建つのは必然だろう。
- ・ホールの整備は建物だけでなく、その事業内容にもよるが、財源や人の動きをみて、スケジュールやミュレーションをしておく必要があるだろう。
- ・市民活動の拠点として整備される提案に賛成する。コミュニティセンター、文化ホールも、躯体の老朽化による大規模な修繕が必要であれば、野洲学区の自治会においても大きなテーマとして意見交換していきたい。
- ・⑤の提案に賛成する。自治会でも、まちづくり推進委員会により検討している。商業機能、交通機能、コミュニティ機能、健康福祉機能、環境機能の5つの機能を柱に検討しているところである。
- ・個人的には、銭湯を継続していただきたい。
- ・今回の買取を検討しているエリアに銀行や民地を含めた大きなブロックで駅前整備を考えていくべきだ。計画中の駅前ロータリー整備も含め、周辺の渋滞緩和とともに、国道からのアクセスも検討していくべきと考えている。

(傍聴者の意見)

- ・ホールではなく市民が日常的に利用する施設（図書館、市役所の一部、健康センター、ボランティアセンターなど）を中心に駅前に集約してはどうか。そして、ここをコミュニティバスなどの交通網の結末点にすべきだ。また、市が健康増進を目的に銭湯を運営してもおかしくはない。
- ・箱物整備ではなく、土地を購入して駅前ロータリーを再検討すべきだ。市が土地購入しなければマンションが建設され、保育園、幼稚園、小学校等の整備も必要となってくるだろう。購入した後に利用検討していくという考え方もあるのではないか。
- ・文化ホールの建て替えが優先されるのは理解できない。駅前の概念をもっと広いエリアで考えた総合的な計画が必要だろう。南北の駅前をつなぐ再開発、あるいは、国道8号から駅北側までの再開発などを検討してはどうか。
- ・市民の駅前とするなら、市民が主導権をもって決めていくために、市が購入することを前提と考える。財政上の課題は大きいですが、是非購入してほしい。

また、三上山を背景とした景観に留意してほしい。広場があることでプラス要因が生まれ、にぎわいが創出されると考える。現在の文化ホール用地を売却した後地には、高層の建築物が建たないよう指導していくべきだ。

(市長のコメント)

- ・検討会議では、参加いただいた方が新鮮な情報を持ち寄って、課題解決に向けて議論を積み上げていくことが大切だと考えている。
- ・再開発の提案をいただいたが、広範囲に及ぶ開発に発展させる場面ではないと考えている。
- ・行政は税を預かり、公共施設や市民サービスを提供することで全体の利益を生む立場にある。
- ・野洲市がホールを持ち続けるのかどうか、駅前を市民が集まる結節点と考えれば、ホールやシニアセンターなども1つのアイデアとして検討すべきで、これについて実現の可能性を検討し、その課題などを議論していきたい。
- ・図書館は建設されて間もないため、建替ではなく市民との接点としての分館を提案しているもので、本の貸出と一定の汎用性のある本を読める場所を設ける案を考えている。
- ・財源は厳しいが、過去の施策と比較すると決して無理なものではない。
- ・買取後に土地利用を考えるという方法は、構想がまとまらず空き地になる可能性が大きいので、買い取るとした場合の目的を明確にしておきたい。銭湯も魅力があるもののあえて駅前に必要な施設なのかどうか、また公園についても他の場所で整備していることを考えた上で判断したい。今回、ある程度煮詰まった議論になってきたので、意見を整理してもう一段良い形にして議論に供したい。

3. 次回の日程及び検討事項

次回日程	平成23年3月16日(水)	19:00～
場所	コミュニティセンターやす	第一、第二研修室

以上